

## 旧小樽支店金融資料館 特別展「渋沢栄一にまつ わるお金のはなし―新し いお札の肖像―」開催中!

二〇二三年二月二十一日(火)まで

▼二〇二四年度上期をめどに、新しい日本銀行券が発行されます。そのうち一万円券は四〇年ぶりに肖像が変わり福沢諭吉から渋沢栄一となります。

▼渋沢栄一(一八四〇〜一九三一年)は一橋家、大蔵省に仕官した後、第一国立銀行の頭取を長

く務め、お金の発行に深く携わりました。

▼一八六四年からは一橋家に仕え、財政を立て直すため領地を巡り、播磨の特産品である木綿に注目しました。良質の木綿を生産者から買い付け、大坂と江戸で直接販売することを考え、そのための機関として「産物会所」を開設しました。その上で、産物会所を発行元とし、地域で使える紙幣「御産物木綿預手形」を発行し、これを仲買に貸し付け、生産者からの木綿の買い取

りに使えるようにすることで取引の活性化を図りました。紙幣の発行に当たっては、地元や近隣の裕福な農商から出資を得て幕府発行の貨幣との引き換えが滞らないようにしました。彼らが会所の役職に就き、紙幣の信用も高まり、額面通りに流通したといえます。

▼その後、渋沢栄一はしばらく政府に仕官し、貨幣制度や国立銀行制度の設計に携わった後、政府を離れ、第一国立銀行の設立のため奔走します。三井組と

小野組に働きかけ、一八七三年に共同経営による第一国立銀行の開業にこぎつけました。設立当初は、三井八郎右衛門と小野善助の二人が頭取に就任し、

渋沢栄一が「総監督」として全体の業務を監督しましたが、一八七四年の小野組の破綻を機に一八七五年に渋沢栄一が頭取に就任しました。

▼本展示では、渋沢栄一が発行に関わった幕末から第一国立銀行までのそれぞれの紙幣と、第一国立銀行の風景が描かれた錦



裏

表

渋沢栄一が発行に携わった一橋領の紙幣  
御産物木綿預手形 1865年

貨幣博物館 蔵



第一国立銀行紙幣 1873年発行  
加筆修正された頭取「渋沢栄一」

貨幣博物館 蔵



渋沢栄一が頭取を務めた第一国立銀行の錦絵 貨幣博物館 蔵

絵をご紹介します。

皆さまのご来館をお待ちしております。

【入館料】 無料

【休館日】水曜日、年末年始（十二月二十九日～一月五日）

【開館時間】午前十時～午後五時

※入館は午後四時半まで

※最新の情報は金融資料館ホームページをご覧ください。

【所在地】北海道小樽市色内一  
一―一―一六

【お問い合わせ先】

日本銀行旧小樽支店金融資料館

〇一三四―二二―二二―



①は観光案内所です

## 「ISOパネル（第六回）.. オンラインでの本人確認 （eKYC）―新たな国際 標準ISO5158の 概要と活用可能性―」を 開催（九月）

▼決済機構局では、九月十五日に標記パネルディスカッションをオンラインで開催しました。

▼金融サービスを提供する上で、本人確認は欠かすことができない業務です。近年では、スマートフォンなどのモバイル機器の普及が進み、利便性・効率性の観点からeKYCと呼ばれるオンラインでの本人確認を活用した金融取引も数多くみられています。こうした中、国際標準化機構（ISO）は、オンラインでの本人確認を行う上で適切な手法を選択できるように共通的な考え方を整理したISO 5158「モバイル金融サービス―顧客識別のガイドライン」の規格開発の作業を進めてきました。

▼当日は、この新しい標準規格

であるISO5158の仕様と、これに引用されているプライバシーや生体認証に関する国際標準を解説しました。その後、ISO5158の起案に携わった専門家の方々と、実際のeKYCを行うデモンストラーション動画も交えながら、①国際標準の起案の際に留意したこと、②ISO5158を日本で活用する上で必要なこと、③eKYC発展に向けた日本の課題、④国際的に調和のとれたルール形成の推進に向けた取り組み、についてパネルディスカッション形式で議論しました。

▼決済機構局は、金融サービス分野の国際標準化を検討する国際標準化機構（ISO）・金融サービス専門委員会（TC 68）の国内委員会事務局を務めています。金融サービス分野の標準化に関心のある方は、日本銀行ホームページに活動内容や取り組みを掲載していますので、ご覧ください。

## 金融広報中央委員会 創立七〇周年を記念して 対談を行いました

▼金融広報中央委員会（事務局：日本銀行情報サービス局、愛称：知るぽると）は二〇二二年四月十五日、創立七〇周年を迎えました。それを記念して、日本銀行の若田部昌澄副総裁（金融広報中央委員会委員）と俳優の鈴木梨央さんが、「一八歳成年に必要な金融知識」をテーマに



左から若田部副総裁、鈴木梨央さん、山本由里さん（対談司会者）

## 編集後記

■対談では、ジャズピアニストの佐藤允彦氏と野口旭審議委員にお話しいただきました。国や時代とともに変化するジャズの本質は何か、さらには今だからこそ感じるライブ演奏の意味合いなど、大いに語っていただきました。まさに、ジャズを愛するお二人によるインプロヴィゼーション（即興演奏）の協演となっています。

■インタビューでは、女子プロサッカーリーグ「WEリーグ」の初代チェアを務められた岡島喜久子氏取材しました。岡島氏は日本女子サッカーの黎明期を支えたアスリートであるほか、金融業界でも日米を股にかけて活躍されました。その岡島氏の「目の前に選択肢があったときに、どっちが楽しそうか、好きかで選んできた。そうすると自分の選択に責任を持つことができるし、一生懸命になることもできます」というお話は説得力抜群でした。

■地域の底力では、北海道の鶴居村を取り上げました。村の皆さまが、愛する地元の自然の魅力を再発見し、これを大切に保護するとともに、村の発展につなげておられます。多くの地域の地域創生のヒントにもなる取り組みではないかと感じました。（上口）

## [アンケート募集中]

「にちぎん」に関するご意見・ご感想は、アンケートよりお寄せください。

日本銀行のホームページからもご回答いただけます。

※本誌は、全国の日本銀行本支店および貨幣博物館、旧小樽支店金融資料館等でお配りしています。個人の方の定期購読、郵送はお取り扱いしておりませんのでご了承ください。なお、既刊号全文をPDFファイル形式で日本銀行ホームページ上に掲載していますのでご利用ください。

([https://www.boj.or.jp/announcements/koho\\_nichigin/index.htm/](https://www.boj.or.jp/announcements/koho_nichigin/index.htm/))

※本誌に掲載している内容は、必ずしも日本銀行の見解を反映しているものではありません。日本銀行の政策・業務運営に関する公式見解等については、日本銀行ホームページ (<https://www.boj.or.jp/>) をご覧ください。

にちぎん 2022年冬号  
編集・発行人 上口洋司  
発行 日本銀行情報サービス局  
〒103-8660  
東京都中央区日本橋本石町2-1-1  
☎03-3277-1609



デザイン 株式会社市川事務所  
印刷 株式会社アイネット  
禁無断転載

対談を行いました。  
▼対談では、今年度新成人となる鈴木さんご自身の思い、成年年齢の引き下げで変わることに、金融教育のご経験などについて伺いました。  
ほかにも、鈴木さんが成人になったら買ってみたいものや、若田部副総裁の子どもの頃の夢など、なかなか聞けない貴重なエピソードも盛りだくさん！  
さらに、二〇二一年十一月に金

融経済教育推進会議（注）が開講したeラーニング講座「マネビタ」人生を豊かにするお金の知恵」を、実際に受講された鈴木さんからの率直な感想なども掲載しております。  
▼知るぼるとホームページでは、対談の動画および全文を掲載しているほか、金融広報中央委員会・武井敏一会長の寄稿文もお読みいただけます。



マネビタのeラーニング講座のロゴ

また、対談の中で紹介されている「マネビタ」は、こちらのQRコードから受講登録ができますので、ぜひご確認ください。受講は無料です。

（注）わが国の金融経済教育に関する諸課題への取り組みを審議することを目的として、二〇一三年六月に設置された会議。金融広報中央委員会が事務局を務める。

